

学習の「めあて」の意義等について

本年度も5月末から学校支援訪問が始まり、中部教育事務所管内の多くの学校に訪問をさせていただいています。授業参観させていただいた多くの学級で、「分かる！・できる！」授業の基本である4つのチェックポイントを意識した授業が展開されています。一方、めあてとまとめが板書されていない授業も散見されます。そこで今回は、授業における「めあて」の意義等について、Q&A方式にて確認をさせていただきます。

Q 1 「めあて」が必要なのですか。

A 児童生徒が学習の見通しをもって授業に臨み、主体的に学習していくことができるためです。この授業で何ができるようになればよいのか、何をどのように考えればよいのかといった学習の目的や方向性を示し、1単位時間の見通しを児童生徒にもたせるために必要です。

※ 児童生徒にとって、毎時間の授業を「先の見えないトンネルに入ること」としてとらえるとし、当然、真っ暗なトンネルより、少しでも明かりの見えるトンネルの方が進みややすくなります。「めあて」は、「この時間はどこに向かうのか」「何ができればよいのか」といった、一点の明かりであると言えます。「めあて」と「まとめ」の板書は、必ず必要であると考えています。

Q 2 「めあて」設定の有無で、児童生徒の学習活動に影響が出てきますか。

A 下表のとおり、影響が出てくることが懸念されます。

「めあて」なし	「めあて」あり
<ul style="list-style-type: none"> ● 活動の目的がはっきりしないため、指示待ち、受け身になりがちである。 ● 達成感・満足感が得られにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目的意識をもって、<u>意欲的に学習に参加</u>することができる。 ○ <u>達成感を感じ、次の学習への意欲が高まる</u>。

Q 3 「めあて」を設定するにあたって、留意することはありますか。

A 以下の3点について、特に留意する必要があります。

- ① 本時身に付けさせたい力を明確にして、目指す「活動のゴールの姿」や「ゴールとそれまでの道筋」を示します。
- ② 本時の評価規準をより具体的にした上で、「めあて」を設定します。
- ③ 学習の見通しをもたせ、意欲を高めるものになるように工夫します。



Q 4 「めあて」の具体的事例を教えてください。

A 例えば、小学校国語科、中学校国語科において、下表のような「めあて」の工夫が考えられます。

小学校国語科	中学校国語科
<ul style="list-style-type: none"> ● 文章を読んで、生き物の特徴をまとめよう。 ↓ 【より具体的な視点を示す】 ○ 生き物を、「体のつくり」や「食べ物のとり方」から調べて、生き物のびっくりを紹介しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 文章を読んで、要旨にまとめよう。 ↓ 【より具体的な視点を示す】 ○ 文章の構成を「序論」「本論」「結論」でとらえて、要旨をまとめよう。